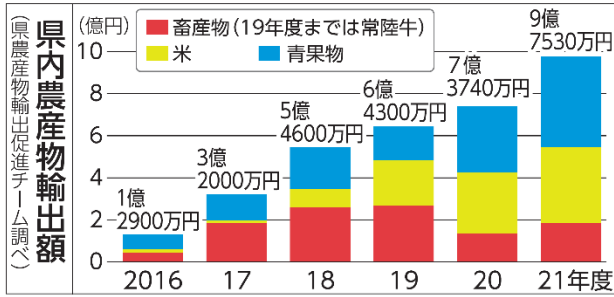


年 月 日 /

学校 年 組 番 なまえ

2022年6月1日付



県が支援した事業者への聞き取り調査などにより、農産物3種の輸出額と輸出

本県21年度

農産物輸出最高9.7億円

サツマイモ50%増

県は31日、青果物とコメ、畜産物の3種を合わせた県内農産物の2021年度輸出額が前年比32%増の9億7527万円となり、過去最高を更新したと発表した。更新するのは集計を始めた15年の翌年から6年連続。サツマイモの輸出額が50%増で全体をけん引したほか、各品目の販路拡大も金額を押し上げた。

輸出額の内訳は、最も高い割合を占める青果物が38%増の4億3040万円。特に好調だったのは青果物の8割以上を占めるサツマイモで、前年から1.5倍増。20年度の同2.2倍増には及ばなかったものの急成長を続けている。輸出先は東南アジアや北米。近年、東南アジアでは焼き芋がブームとなっており、ねっとりとした食感と甘みが

特長の「紅はるか」は品種を指定されるほどの人気だという。メロンは昨年11月、米国が日本産メロンの輸入を解禁したタイミングで全国に先駆けて出荷し、販路拡大につながった。緑茶の米国輸出も始まった。畜産物は37%増の1億8390万円。昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大による飲食店の営業規制で落ち込んだが、規制が緩和されたことなどから、常陸牛の需要が回復。カナダへの輸出開始も追い風となった。20年度から開始した

香港向け鶏卵はほぼ横ばい。コメは24%増の3億6100万円。県内農家らでつ

くる「県産米輸出推進協議会」の取り組みにより、新たにオーストラリアへの販路を獲得した。県は今後、各国の輸入商社への営業に力を入れるほか、福島第1原発事故を契機とした本県など5県の食品輸入禁止措置を解禁した台湾での販路拡大を視野に入れる。担当者は「既存の販路を太くしつつ、新規開拓を行っていく。新たな品目の提案も進める」としている。(矢幡佳那子)

【問1】 茨城県内農産物の2021年度輸出額は、前年度(20年度)と比べると、いくら増えましたか？ グラフを読み解き、答えましょう

2億3790万円増 (97530 - 73740)

【問2】 中でも50%増と好調だったサツマイモ。主な輸出先はどの地域で、好調の理由は何ですか？

東南アジアや北米
東南アジアで焼き芋がブーム
特に、ねっとり甘い「紅はるか」が人気

【問3】 コメの輸出で、新たに販路獲得に成功した相手国は、どこですか？

オーストラリア



よ 読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね